

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2395700186 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 成仁会 | | |
| 事業所名 | グループホームメドックガーデンビレッジ緒川 | | |
| 所在地 | 愛知県知多郡東浦町緒川栄39番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年1月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年4月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・行動計画(ES・CS・OS・独自)を作成し、関わる人全ての満足度を挙げることを目標としている ・下剤服用せず、毎日～2.3日に1回の自然排便が出ることを目標としている ・理念、サービスの心得、行動規範など、方向性を法人全体で示している ・職員主体ではなく、「利用者様」にとってを常日頃から考える事を職員も楽しむ |
|---|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人なごみ(和)の会 |
| 所在地 | 名古屋市千種区小松町五丁目2番5 |
| 訪問調査日 | 令和6年2月27日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>従業員満足、顧客満足、組織満足の行動計画を作成し関わる人全ての人の満足度をあげることを目標とし、職員は行動規範を掲げて日々の支援に取り組んでいる。また、定期的に法人内研修、虐待、不適切なチェックシートとして自己チェック、巡回チェックが実施されることで職員の気付きやスキルアップ、意識の向上に繋げている。コロナ禍から暫く外出レクが出来ないけれど、職員の努力に寄りホーム内では毎月の定例行事として生け花、カラオケ、抹茶会、モーニング、習字等様々なイベントを行い、利用者の楽しみとなっている。職員は利用者中心に利用者にとつての良い事として自然排便、階段を使う、失禁をなくす等色々取り組み大変だけど楽しもうと考えている。その結果職員の負担軽減にも繋がっていく。今後は地域との交流や買い物で利用者自身が選んで購入出来たり、家族との時間を過ごせて貰えるようにと意欲的に検討していることが、ホームの反映に広がっていくのではと期待される。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・事務所内にも見えるように掲げている ・ミーティング時に振り返りを行ったり、当事業所で理念に行き届いていない事は何かを話し合ったりした | 法人理念を基に各職員は行動規範のなかから抜粋した目標を掲げ実践出来るように努めている。研修後やミーティング時に行動計画に沿ってケアが出来ているか出来ていないか話し合っ確認し、共有されて実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | ・日常的という訳ではないが、散歩をしたり、ボランティア活動(事業所企画)、町内の飲食店から出前を頼んだり、持ち帰りをしたりしている | 散歩の際は近隣住民と挨拶を交わしホームの入居者と認識されている。またホーム恒例行事の花火大会開催の理解を得る為に近隣住民に連絡を入れている。法人として小学校の福祉授業の研修に出向いている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・法人内で認知症サポーター講座の実施。法人として、外部へ研修に出向いたりしている。又、ご家族にも、担当者会議などで、認知症対応について、「勉強になります」とのコメントを頂く時もある | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・他グループホームと交流を行い、町や地域に報告をしている。運営推進会議からは伝えていないが、他グループホームの情報として、職員に話すことはある。積極的な共有はできていない | 運営推進会議は年六回実施しホームの様子、活動、入居者の状況、アクシデント等報告し意見交換されている。地域住民参加者から多くの地域情報が得られている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ・必要に応じて、人員状況、加算の変更、アクシデントの報告等を実施している。又、不明な点は質問などし確認している。 | 役場の担当者とは相談事等について電話やメールで連絡を取っている。事故報告書類等持参で窓口に出向いた際にはホームの状況を伝え協力関係の構築に努めている。包括支援センターとは日頃より連携が図られている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・研修で学んでおり、身体拘束をしないケアを意識している。行動の抑制をするような発言、環境はないか、グレーゾーンを良しとせず、一度立ち止まり考える機会や共有するようにしている | 身体拘束の研修は法人全体で定期的に行われ、職員は身体拘束について理解を深めてケアに努めている。ケアのなかで何か見受けられた場合は会議等で例をあげて話し合っ共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。防犯と安全の為に玄関、各ユニットのドアは施錠されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・虐待アンケートを実施し、自身や周囲が不適切なケアに繋がるケースはないか等、振り返りを実施している ・巡回チェック(法人内)を実施し、他事業所からのチェックも定期的に受けている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・「権利擁護」という言葉で話しをする事は少ないが、「尊重」「自立支援」「想い」等、ご本人様を尊重した上での話し合いを実施している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・管理者が入居時に説明。又、変更点も書面→同意書をもっている。職員にも伝達している | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・要望をすべて受け入れるのは難しいが、できること、できないこと等を説明し、双方が納得できるよう努めている ・担当者会議や面会時(制限あり)等、色々な話をしている | 利用者からは日々のケアのなかで聴けるように言葉がけや対応に気を付けている。家族からはアンケートの実施や面会時、担当者会議の際に意見要望が出されたら、申し送りノート、日々の記録システムで共有し運営に活かされている。家族への連絡は主に電話で行っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・ミーティング、カンファは以外にも、日常の中での意見も、ないがしろにせず、試す機会を作る等、業務へ反映している ・職員が納得できていないケースもある | ミーティング、カンファレンス以外に個人面談を年二回設け職員の自己申告書を基に話し合う機会が有る。又日頃より意見提案等言える環境が造られている。ホーム近くに駐車場を作って欲しいと言う要望が上り、法人の許可が得られて反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・給与や時間外、やりがい等は個々で違うので、満足度にはバラつきがあると思う ・グッドスタッフ制度、ボイス(感動、感謝等を書く)、特別賞与等あり | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・施設内研修、スキルアップ研修の実施 ・個人でも出来るeラーニングの活用 ・苦戦サポートへの会議や実践でのアドバイスの実施 ・受講後にミーティングでの振り返りも実施 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・運営推進会議後に雑談(会議では話にくい内容等)をする事もある ・法人内にいくつかの事業所がある為、定期的に会議や研修で情報交換、共有をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・管理者が入居時に聞き取りを実施 ・職員も担当制度を導入し、担当者が情報の把握、物品依頼等、関係性の構築に努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・管理者が入居時に聞き取りを実施 ・職員も担当制度を導入し、担当者が情報の把握、物品依頼等、関係性の構築に努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・ご本人の性格や趣味を把握し、必要なサービス提供に努めている ・担当者会議の実施、職員で情報の共有 ・ご家族と本人の意向がイコールにならない事もあるが、双方が納得できるように配慮している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・共同作業に、助け合うという関係ができるように、声かけの仕方を工夫している(疑問系→答えは利用者様) ・「人」と「人」との会話を大切にしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・ご自分で携帯電話を持参され、電話で話している方もいる ・日頃の様子を職員からも伝えている(電話・一言コメント・新聞・面会・来訪時等) | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・週1回の面会の場合、テレビ電話、手紙、電話等、積極的に活用できるように声をかけている | 現在面会者はほぼ家族で週一回日曜日に15分会議室で行われている。外出は家族付き添い受診と職員との散歩が主になっているが、今後は家族との墓参りや冠婚葬祭の為の外出は可能になった。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・性格、ADL、関係性(仲の良い人同士)を考慮しリビングの席を決めたり、変更したりしている ・時間帯によっては1人の時間も作るなど、その方に合わせた環境設定をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・退去後も、こちらの入居者様に会いに(そのご家族様と)来られたりされることもある | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・以前の生活歴を参考にし、個々の生活スタイルを大切にしている ・一斉ケアにならないように、一斉と個別の使い分けをしている | 生活歴や家族の情報からその人となりを知るベースとし、入居後ベースをもとに話しかけ、受け答えはもちろん、表情、態度などから思いを汲み取るようにしている。夜明け前から居室を出てくる人には軽い掃除などを手伝ってもらい、出たい思いを受け止めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・以前の生活歴を参考にし、これまでの生活スタイルに近づけるように努めている ・自宅で使用していた家具、アルバム、裁縫道具等、様々な物を持参している | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・家事活動(洗い物、調理、片付け、洗濯物干し等)への参加、居室をご自分で掃除して頂いたり、工作や読書、歌が好きな方には、実施できる環境作りをしている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・最低でも半年に1回のモニタリングの実施、随時ミーティング等で話し合いを行い、見直しを行っている。達成できないものは何が原因か考えたり、新たな事に挑戦したり等、できる限り、ご本人が満足できる取り組みを検討 | 半年に一度モニタリングし、計画の見直しを行っている。その間に居室担当を中心に日々の申送りやミーティングを通して得られた情報や、家族からの要望を集め、計画に落とし込んでいる。素案ができた段階で家族に説明し、了解を得たら新しい介護計画にそって支援にあたる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・失敗、成功例なども共有 ・PCで日々の記録、申し送りの実施、会議での共有を行い、次へのプランと繋げられるようにしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・感染対策に関する面会対応の一部緩和や、理美容での個別の注文等、状況に合わせた対応を実施している ・反映できていない事もある(法人として) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・感染対策にて外部との接触が難しい状況でもあり出向く事は難しいが、出前や持ち帰りの食事、移動理美容、ヤクルト等を利用 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・現時点で17名が往診契約をされている ・定期的な往診以外にも、必要時、相談を行い、状況に応じて、臨時での往診にも対応して下さっている ・事業所の取り組みや特性にも理解をして下さり、往診時に相談を行っている | かかりつけ医を入居後もそのまま利用している人、協力医にかかった人、両方を使っている人もいる。往診してもらえない人は家族対応で受診している。歯科についても同様である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・週1回来訪 ・健康チェックの実施 ・必要時、アドバイスをもらっている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・病院の退院窓口と管理者で情報共有している ・ご本人にとって、1番何が良いのかを話したり、ご家族としての意向等、現状での受け入れを行った場合、事業所ができる事を伝え、それも踏まえ、ご家族と話し合ったりしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・入居時に説明 ・その時が近づいた時にも、事業所が出来る対応を説明し、どうされるか等を一緒に考えるようにしている | 看取りも行うことを入居時に説明している。重度化した場合は協力医やかかりつけ医から看取りになると管理者は伝えられ、そこから家族に連絡、医師から話をしてもらっている。事業所側では看取りにあたって送りやミーティングで情報を共有し、こういう時にはどう連絡し、どう行動するかを確認し、支援にあたっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・急変時の対応等、研修で学んでいる ・急変時は状況に応じて、救急車、管理者等への連絡 ・応急手当は実施できるように救急箱の準備もしている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・年2回の避難訓練を法人全体で実施している ・消防からも、「今年度は良かった」との評価をいただいた ・地域との連携訓練はできていない | 年に二度、うち一度は消防立ち合いのもと夜間想定での避難訓練を行っている。備蓄もグループホームとして三日分用意している。地域の避難訓練があること、他事業所が避難場所まで避難する訓練をした情報をもらったことで、今後の訓練について再考するつもりである。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・「尊厳」「尊重」は声かけから始まり、ドアを閉める等、介護の世界ではおろそかになりがちな事も、人との暮らしのあたり前を意識するよう会議で話すこともある ・しかし、まだ指示的な声かけも聞かれる | 利用者一人ひとりに対して それぞれに接し方を工夫している。接遇向上、個の尊重を法人として力を入れており、職員は理解したうえで、居室やトイレのドアを閉める、声掛けはそっと、などから徹底して利用者で接し、もし、他の職員が敬語を使わず慣れ慣れしく話していたら注意しあっている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | <ul style="list-style-type: none"> ・声かけを、「～しましょうか」等、疑問文にする事で、ご利用者様が決定できるようにしている ・活動性の高い方には活動を、自発性が少ない方には、参加したいとなるような働きかけを行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の性格、習慣、特性を大切に環境設定(机の配置、ソファ、マッサージチェア。あえて狭い空間を作ることでプライベートな空間等)をしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・自身で衣類の選択ができるように、ご利用者様に合わせた声かけを実施(二者択一等) ・髪の毛を伸ばしたい方、化粧を希望される方等、本人の思いを尊重している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・食事準備と一緒に参加して頂き、自分達で作っているという意識を大切にしている ・お好みメニュー、居酒屋、モーニング等、イベントも毎月実施 ・個々に合わせた形態、好みの飲み物の提供などしている | 主菜は業者のものを利用しているが、みそ汁の用意は利用者も下拵えなどで関わり、配膳、洗い物など、できることはやってもらっている。居酒屋カラオケ、モーニングなど、特別な料理イベント、おやつレク、出前の寿司や洋食などで、利用者に食事を楽しんでもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・食事、水分摂取量は把握している ・温度、味も含めた好みも把握し、水分摂取量の確保に努めている(1500CC/日摂取を目標にする事も多い) ・水分は意向を伺い、自分で選んでいるという気持ちを大切にしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、声かけサポート等、その方にあつた対応をしている ・希望のある方は、歯科医に定期的に通ってチェックを受けている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | <ul style="list-style-type: none"> ・その方の排泄パターンを把握するよう努め、声かけや誘導時間の見直しを定期的に行っている ・おむつ等の使用は基本的には最終手段と捉え、まずはトイレでの排泄を目標としている | 水分の補給と、歩行と、声掛けでトイレの利用を推進、便秘を改善し、失敗の軽減につなげている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | <ul style="list-style-type: none"> ・目標を毎日～2.3日1回の自然排便とし取り組んでいる。水素水、甘酒、ヤクルト、乳製品等の飲み物工夫から、オイルや「の」の字体操を取り入れるなどしている(下剤を中止できた方もいる) | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・希望や受診等、ご本人の都合に出来るだけ浴うようにしている ・湯の温度の確認や羞恥心に配慮したサポートを行っている ・話し好きな方は、マンツーマンになれる機会として、色々な話をされるケースもある | 週に二回、入浴している。シャンプー、石鹸などは個別で用意、使用している。希望する人は週に三回の入浴も提供している。汚染時は都度対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・日中は活動への参加 ・眠る為の環境作り(温度、明るさ、枕の位置等)の実施 ・寝つきの悪い方にはホットミルクを提供するなど、無理に寝て頂くのではなく、自然と寝たくなるようなサポートを実施 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | <ul style="list-style-type: none"> ・ダブルチェックをする等、誤薬のないよう取り組んでいる ・主治医と情報共有しながら内服時間の見直し等行っている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・一斉の活動(体操や歌等)以外にも、個別の活動(調理、裁縫、ぬり絵、歌、工作、クラフト、ピアノ、散歩、ゴミ捨て等)を取り入れている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染以降、地域への外出に制限あり(法人として)。その中でも人と接触しない公園、ドライブスルー等を活用していた | 外出の制限が徐々に緩和されており、近所への散歩など、屋外に出る機会もある。ボランティア清掃では利用者と職員がともに屋外で頑張っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・事業所で管理している方もいるが、ご自分で管理している方もいる ・自販機の活用 ・現金は入っていないが財布のみを持参されている方もいる(ポケットに入れている) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を持参され、電話やメールを実施。事業所の電話を使用して電話される方もみえる ・ご本人がご家族に手紙を書いたり、職員も一言コメントで日々の様子を伝えている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・居室内は自由にレイアウトして頂いている ・リビングや廊下は季節感が出るような設え、作品の展示をしたりしている ・1日2回は温度、湿度のチェックをし記録に残している ・冬場はひざ掛け、レッグウォーマーの活用等で、個別の寒さ対策を実施 | とても日当たりがよいリビングの接するベランダは東西ユニット両方に接して仕切りもなく、ちょっとした植え込みもあり、利用者は天気の良い日にはベランダのベンチでくつろぎ、また行き来する人もいます。廊下は広く長くとられており歩行訓練にもなる。畳コーナーもあり、最近ではストレッチに利用する人がいて、それにつられて一緒に運動する人もいます。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの方、気の合う方等で席を配置している ・本棚等で仕切りを作り、それぞれの空間ができるようにしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・居室にソファ、ベッド等、ご自宅で使用していた物を持ち込んで頂いたり、趣味や昔の写真を飾る等している | 居室にはそれぞれにトイレと洗面台がついており、トイレや口腔ケアは居室で行える。それぞれに使い慣れた家具を持ち込み、写真や生け花の作品を飾ってくつろぐことができている。床に座りたい人もいてカーペットを敷き座椅子で自分の時間を過ごしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | <ul style="list-style-type: none"> ・ベランダでの菜園、花壇など、役割に繋げたり、本が自由に手にとれる同線、トイレマークを掲示し、トイレの場所を分かりやすく等、そのユニットの特性にあわせた環境設定をしている | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2395700186 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 成仁会 | | |
| 事業所名 | グループホームメドックガーデンビレッジ緒川(東) | | |
| 所在地 | 愛知県知多郡東浦町緒川栄39番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年1月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年4月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人なごみ(和)の会 | | |
| 所在地 | 名古屋市千種区小松町五丁目2番5 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年2月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・行動計画(ES・CS・OS・独自)を作成し、関わる人全ての満足度を挙げることを目標としている ・下剤服用せず、毎日~2.3日に1回の自然排便が出ることを目標としている ・理念、サービスの心得、行動規範など、方向性を法人全体で示している ・職員主体ではなく、「利用者様」にとってを常日頃から考える事を職員も楽しむ |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・事務所内にも見えるように掲げている ・ミーティング時に振り返りを行ったり、当事業所で理念に行き届いていない事は何かを話し合ったりした | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・日常的という訳ではないが、散歩をしたり、ボランティア活動(事業所企画)、町内の飲食店から出前を頼んだり、持ち帰りをしたりしている | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・法人内で認知症サポーター講座の実施。法人として、外部へ研修に出向いたりしている。又、ご家族にも、担当者会議などで、認知症対応について、「勉強になります」とのコメントを頂く時もある | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・他グループホームと交流を行い、町や地域に報告をしている。運営推進会議からは伝えていないが、他グループホームの情報として、職員に話すことはある。積極的な共有はできていない | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ・必要に応じて、人員状況、加算の変更、アクシデントの報告等を実施している。又、不明な点は質問などし確認している。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・研修で学んでおり、身体拘束をしないケアを意識している。行動の抑制をするような発言、環境はないか、グレーゾーンを良しとせず、一度立ち止まり考える機会や共有するようにしている | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・虐待アンケートを実施し、自身や周囲が不適切なケアに繋がるケースはないか等、振り返りを実施している ・巡回チェック(法人内)を実施し、他事業所からのチェックも定期的に受けている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・「権利擁護」という言葉で話しをする事は少ないが、「尊重」「自立支援」「想い」等、ご本人様を尊重した上での話し合いを実施している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・管理者が入居時に説明。又、変更点も書面→同意書をもっている。職員にも伝達している | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・要望をすべて受け入れるのは難しいが、できること、できないこと等を説明し、双方が納得できるよう努めている ・担当者会議や面会時(制限あり)等、色々な話をしている | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・ミーティング、カンファは以外にも、日常の中での意見も、ないがしろにせず、試す機会を作る等、業務へ反映している ・職員が納得できていないケースもある | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・給与や時間外、やりがい等は個々で違うので、満足度にはバラつきがあると思う ・グッドスタッフ制度、ボイス(感動、感謝等を書く)、特別賞与等あり | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・施設内研修、スキルアップ研修の実施 ・個人でも出来るeラーニングの活用 ・苦戦サポートへの会議や実践でのアドバイスの実施 ・受講後にミーティングでの振り返りも実施 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・運営推進会議後に雑談(会議では話にくい内容等)をする事もある ・法人内にいくつかの事業所がある為、定期的に会議や研修で情報交換、共有をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・管理者が入居時に聞き取りを実施 ・職員も担当制度を導入し、担当者が情報の把握、物品依頼等、関係性の構築に努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・管理者が入居時に聞き取りを実施 ・職員も担当制度を導入し、担当者が情報の把握、物品依頼等、関係性の構築に努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・ご本人の性格や趣味を把握し、必要なサービス提供に努めている ・担当者会議の実施、職員で情報の共有 ・ご家族と本人の意向がイコールにならない事もあるが、双方が納得できるように配慮している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・共同作業に、助け合うという関係ができるように、声かけの仕方を工夫している(疑問系 → 答えは利用者様) ・「人」と「人」との会話を大切にしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・ご自分で携帯電話を持参され、電話で話している方もいる ・日頃の様子を職員からも伝えている(電話・一言コメント・新聞・面会・来訪時等) | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・週1回の面会の場、テレビ電話、手紙、電話等、積極的に活用できるように声をかけている | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・性格、ADL、関係性(仲の良い人同士)を考慮しリビングの席を決めたり、変更したりしている ・時間帯によっては1人の時間も作るなど、その方に合わせた環境設定をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・退去後も、こちらの入居者様に会いに(そ のご家族様と)来られたりされることもある | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・以前の生活歴を参考にし、個々の生活スタイルを大切にしようとしている ・一斉ケアにならないように、一斉と個別の使い分けをしている | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・以前の生活歴を参考にし、これまでの生活スタイルに近づけるように努めている ・自宅で使用していた家具、アルバム、裁縫道具等、様々な物を持参頂いている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・家事活動(洗い物、調理、片付け、洗濯物干し 等)への参加、居室をご自分で掃除して頂いたり、工作や読書、歌が好きな方には、実施できる環境作りをしている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・最低でも半年に1回のモニタリングの実施、随時ミーティング等で話し合いを行い、見直しを行っている。達成できないものは何が原因か考えたり、新たな事に挑戦したり等、できる限り、ご本人が満足できる取り組みを検討 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・失敗、成功例なども共有 ・PCで日々の記録、申し送りの実施、会議での共有を行い、次へのプランと繋がられるようにしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・感染対策に関する面会対応の一部緩和や、理美容での個別の注文等、状況に合わせた対応を実施している ・反映できていない事もある(法人として) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・感染対策にて外部との接触が難しい状況でもあり出向く事は難しいが、出前や持ち帰りの食事、移動理美容、ヤクルト等を利用 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・現時点で17名が往診契約をされている ・定期的な往診以外にも、必要時、相談を行い、状況に応じて、臨時での往診にも対応して下さっている ・事業所の取り組みや特性にも理解をして下さり、往診時に相談を行っている | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・週1回来訪 ・健康チェックの実施 ・必要時、アドバイスをもらっている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・病院の退院窓口と管理者で情報共有している ・ご本人にとって、1番何が良いのかを話したり、ご家族としての意向等、現状での受け入れを行った場合、事業所ができる事を伝え、それも踏まえ、ご家族と話し合ったりしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・入居時に説明 ・その時が近づいた時にも、事業所が出来る対応を説明し、どうされるか等を一緒に考えるようにしている | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・急変時の対応等、研修で学んでいる ・急変時は状況に応じて、救急車、管理者等への連絡 ・応急手当は実施できるように救急箱の準備もしている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・年2回の避難訓練を法人全体で実施している ・消防からも、「今年度は良かった」との評価をいただいた ・地域との連携訓練はできていない | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・「尊厳」「尊重」は声かけから始まり、ドアを閉める等、介護の世界ではおろそかになりがちなる事、人との暮らしのあたり前を意識するよう会議で話すこともある ・しかし、まだ指示的な声かけも聞かれる | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | <ul style="list-style-type: none"> ・声かけを、「～しましょうか」等、疑問文にする事で、ご利用様が決定できるようにしている ・活動性の高い方には活動を、自発性が少ない方には、参加したいとなるような働きかけを行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の性格、習慣、特性を大切に環境設定(机の配置、ソファ、マッサージチェア。あえて狭い空間を作ることでプライベートな空間等)をしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・自身で衣類の選択ができるように、ご利用者様に合わせた声かけを実施(二者択一等) ・髪の毛を伸ばしたい方、化粧を希望される方等、本人の思いを尊重している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・食事準備と一緒に参加して頂き、自分達で作っているという意識を大切にしている ・お好みメニュー、居酒屋、モーニング等、イベントも毎月実施 ・個々に合わせた形態、好みの飲み物の提供などしている | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・食事、水分摂取量は把握している ・温度、味も含めた好みも把握し、水分摂取量の確保に努めている(1500CC/日摂取を目標にする事も多い) ・水分は意向を伺い、自分で選んでいるという気持ちを大切にしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | <ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、声かけサポート等、その方にあった対応をしている ・希望のある方は、歯科医に定期的に通ってチェックを受けている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | <ul style="list-style-type: none"> ・その方の排泄パターンを把握するよう努め、声かけや誘導時間の見直しを定期的に行っている ・おむつ等の使用は基本的には最終手段と捉え、まずはトイレでの排泄を目標としている | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | <ul style="list-style-type: none"> ・目標を毎日～2.3日1回の自然排便とし取り組んでいる。水素水、甘酒、ヤクルト、乳製品等の飲み物工夫から、オイルや「の」の字体操を取り入れるなどしている(下剤を中止できた方もいる) | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・希望や受診等、ご本人の都合に出来るだけ浴うようにしている ・湯の温度の確認や羞恥心に配慮したサポートを行っている ・話し好きな方は、マンツーマンになれる機会として、色々な話をされるケースもある | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・自中は活動への参加 ・眠る為の環境作り(温度、明るさ、枕の位置等)の実施 ・寝つきの悪い方にはホットミルクを提供するなど、無理に寝て頂くのではなく、自然と寝たくなるようなサポートを実施 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | <ul style="list-style-type: none"> ・ダブルチェックをする等、誤薬のないよう取り組んでいる ・主治医と情報共有しながら内服時間の見直し等行っている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・一斉の活動(体操や歌等)以外にも、個別の活動(調理、裁縫、ぬり絵、歌、工作、クラフト、ピアノ、散歩、ゴミ捨て等)を取り入れている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染以降、地域への外出に制限あり(法人として)。その中でも人と接触しない公園、ドライブスルー等を活用していた | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・事業所で管理している方もいるが、ご自分で管理している方もいる ・自販機の活用 ・現金は入っていないが財布のみを持参されている方もいる(ポケットに入れている) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・携帯電話を持参され、電話やメールを実施。事業所の電話を使用して電話される方もみえる ・ご本人がご家族に手紙を書いたり、職員も一言コメントで日々の様子を伝えている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・居室内は自由にレイアウトして頂いている ・リビングや廊下は季節感が出るような設え、作品の展示をしたりしている ・1日2回は温度、湿度のチェックをし記録に残している ・冬場はひざ掛け、レッグウォーマーの活用等で、個別の寒さ対策を実施 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・馴染みの方、気の合う方等で席を配置している ・本棚等で仕切りを作り、それぞれの空間ができるようにしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・居室にソファ、ベッド等、ご自宅で使用していた物を持ち込んで頂いたり、趣味や昔の写真を飾る等している | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・ベランダでの菜園、花壇など、役割に繋がったり、本が自由に手にとれる同線、トイレマークを掲示し、トイレの場所を分かりやすく等、そのユニットの特性にあわせた環境設定をしている | | |